



←江戸川の土手にツクシが芽を出した。矢切の渡しにもすっかり春が訪れた。

→春の訪れとともに舟に乗りに来るお客さんも多くなった。

「女三人寄ればかしましい」というが、男が三人寄ればなんといいばいいのだろう。それも、おっさんが……。

大相撲が中日を迎えた今日、茨城県出身のヤツさん、岡山県出身の私、矢切生まれの舟頭さんの三人が、がん首をそろえて相撲の話になった。

「いままで人気のなかった茨城がすごいねえ。常磐線沿線の牛久、それに土浦。いま、わいてるだろうねえ」

まず舟頭さんが口火をきった。

常磐線沿線の牛久といえは稀勢の里の出身地、土浦は高安の出身地だ。両力士が全勝で走っている。

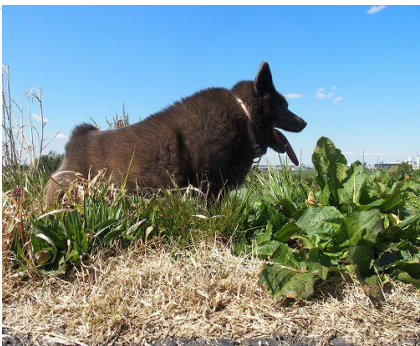
「それだけじゃないよ。筑波山があるじゃない。それに鹿島神宮だつて」

と、ヤツさんがいえば、舟頭さんが「そうだねえ、各地の男女が筑波山に集まって唄い、踊り、騒いだつていう歌垣（かがい）てやつ。むかしは茨城も人気があつたんだね」

そのむかし、筑波山には近隣の男女が集まって遊んだという。男女の交わりも自由だったという。万葉の時代。おおむかしの話だ。

今週のクマ

→江戸川の土手の上にあがって東京方面を眺めるクマ。



→久しぶりに道路に描かれた落書きを見た。子どもたちが遊んでいる姿が目につくようだ。



「そういえば筑波山には日本書紀に書かれているセキレイが止まったという大きな岩があったよ」

と、よけいなことをいう私。

日本書紀によるとセキレイが尻尾を下に振るのを見てイザナギ、イザナミの二神が性交することができ、子どもを産んだといわれる。

「それからねえ、鹿島神宮。奈良の春日大社はここからでたっけいわれる」

ヤッさんの話だと、鹿島神宮は宮中の四方拝でいまも遙拝されるのだという。

いずれにしても、かつての茨城県といえばけっこう人気があったのだ。

古事記だとか日本書紀といえど、どこかフィクションぽいが、たとえば海に剣を突っ込み抜き上げたとき落ちた滴が淡路島を生んだという記述などがそうだ。

「それにしても日本には神様が多いね」

「そうだよコンビニの数より多いんだ」

「お寺も多い。教会もモスクもある」

「こんな国、ほかにはないんじゃないの」

「神様以外はみんな外国からの輸入だ」

「それらを日本流にして受け入れた」

「節操がないよね、日本人て」

そういうことか？ 日本人は無節操？